

## 第35回中川村リニア中央新幹線対策協議会 会議録



期 日 令和5年12月25日(月) 午後7時00分～8時45分

場 所 中川村役場 基幹集落センター 集会室

### 出席者

- ・対策協議会委員 15人(欠席者3人)
- ・J R 東 海 12人(うちJV3人)
- ・長 野 県 8人(伊那建設事務所3人、飯田建設事務所5人) ※以下「伊建」「飯建」
- ・村 関 係 者 6人
- ・マ ス コ ミ 3人

### 1 開会

事務局 皆さんこんばんは。(一同「こんばんは。」)

出席予定の方が全員お揃いになりましたので、ただいまから第35回中川村リニア中央新幹線対策協議会を行いたいと思います。まず、すみませんが、資料の確認を致します。次第、資料1、資料2-1、資料2-2、資料3、資料4とございますので、ご確認をお願い致します。

また、すみませんが、携帯電話につきましては、電源をお切りになるか、マナーモードの設定をよろしくお願い致します。

それでは次第に基づいて、会長から挨拶を申し上げます。

## 2 あいさつ

会長 改めましてこんばんは。（一同「こんばんは。」）

暖冬とはいえ、やっぱり寒いので、しかもこの会場いつも皆さん思っているかもしれませんが、寒い会場で申し訳ございません。短時間の中で中身の濃い議論と方向性が出せればいいかなと思っておりますので、予めご協力をお願いしたいと思えます。

さて、本協議会に先立ちまして、2つの件について報告をしたいと思えます。

1点目は、12月21日にリニア中央新幹線事業に係る関係市町村長とJR東海との意見交換会が飯田市で開催されました。村からは発生土運搬時の交通安全対策に留意し、騒音、粉塵の発生に配慮をしていただきたい。それから工事期間中の運搬路の維持管理に留意いただきたい。これは、道路を管理する長野県さんにもお願いするところであります。それからもう1点、運行車両等の増加に伴う地域の環境変化の検証で大雪等による大型車両の運行を早期に中止し、渋滞を招かないようなダンプ運行中止の決定など、大きく3つのことを柱として村から要望を致したところであります。このことについては後程、JR東海からお話があるかと思えますが、よろしく申し上げます。

2つ目は、12月23日に小和田地区の基盤整備と天竜川堤防整備の合同着工式を挙行致しました。年明けからリニア発生土の往路運搬が県道北林飯島線経由で三共の河川公園の予定地へ、国道153号からは駒ヶ根市中沢新宮川と小和田地区に運搬されます。復路につきましては、153号を通り松川町洞新線経由で帰る予定でございます。

前回の開催につきましては、10月3日、約3ヶ月が経過をしているわけでありませけれども、総代の委員の皆様との交代の直前になってしまいました。県道北林飯島線運行開始前に要望等を出していただいて、安全で安心な車両運行について調整を図る目的で年の瀬の開催になったわけでありませ。

大きく2点を申し上げましたが、協議事項の冒頭でJR東海から中央新幹線、先程申しました通り、JR東海からもご説明をいただけるものと思っております。

さて、本日の協議の主題であります。

お手元に資料が渡っておりますけれども、まず大きく3点であります。

1点目は、JR東海の大鹿村内の南アルプストンネル工事、伊那山地トンネル青木川工区の進捗状況と渡場交差点、半の沢におけるダンプ等の車両計画の説明及び渡場交差点付近の環境測定値の報告と分析、それと関連する調査事業を予定しているようでありますので、これのご説明をいただきます。

2点目は、主要地方道松川インター大鹿線の改良工事、事前の関係機関との調整等について、飯田建設事務所から報告をいただきます。

3点目は、一般県道北林飯島線改良で7箇所の改良をさせていただいておりますので、12月をもって一定の区切りを付けることで進めておりますので、この報告と説明をさせていただき、これを議題として協議を行います。本年の会議が発生土運搬前の関連する改良工事等の1区切りになりますので、来年の本格運行を前にして、委員の皆様からご意見や、場合によっては沿線住民のご要望等をお出しいただきまして、後々の問題が少しでもなくなり、安全な運行や居住環境の維持に繋がる議論をお願いし、協議会冒頭のご挨拶と致します。

よろしく申し上げます。

### 3 協議事項

#### (1) JR東海工事関係

- ・大鹿村内リア工事進捗状況について
- ・工事用車両台数について
- ・渡場交差点付近における環境測定について
- ・その他

事務局 はい。

それでは次第の3番の協議事項等につきましては、会長の進行でお願い致します。

会長 はい。

それでは座って司会させていただきます。お手元に協議事項がありますので、まずこれをご覧いただいて、J R東海の工事関係を議題と致しますが、その前にJ R東海から総括的なご挨拶をお願いします。

J R東海 どうも改めましてこんばんは。（一同「こんばんは。」）

本日も皆様の貴重なお時間、ご説明の機会をいただきましてありがとうございます。

また、日頃より協議会の皆様には、リニア中央新幹線事業にご理解とご協力を賜りありがとうございます。重ねて御礼申し上げます。

今、会長からお話ありました通り、先週の21日に関係市町村長とJ R東海との意見交換がありまして、その時に当社副社長からご挨拶をしましたが、その部分をお話させていただきます。今月の14日ですけれども、全国新幹線鉄道整備法の手続きと致しまして、工事実施計画その3の認可申請を行いました。今回の申請の中でリニアの工事完了の予定時期、すなわち品川名古屋間の開業時期につきましても変更致しました。従来から申し上げている通り、南アルプストンネル静岡工区のトンネル掘削工事に未だ着手の見込みが立たない状況でありますので、当初申請していました令和9年、2027年の開業が困難な状況でございます。そのため今回の申請書では、工事完了時期につきまして令和9年、2027年以降と後ろに以降を付けて、実態に合わせて変更致しました。現時点では新たな開業時期を見通すことができない状況ではありますが、工事による生活環境への影響をお掛けしておりますので、引き続き、可能な限り早期の開業を目指して、工事はペースダウンすることなく全力で取り組んで参ります。

今後も対策協議会の皆様、それから中川村民の皆様とはコミュニケーションをしっかりと図って事業を進めて参ります。

それから21日に中川村長からいただいたご要望の中で工事用車両の運行についてご要望をいただきました。これにつきましては、中川村と結んでおります工事用車両運行に関する確認書に則り、しっかりと安全を確保しつつ運行していきます。それから今日もご説明致しますが、運行計画についてもきちんと事前にお知らせをして進めていくとお話をさせていただきました。これらにつきましては今後もしっかりとやらせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。では、次順ご説明に入ってよろしいですか？

会長        お願いします。

J R 東海    こんばんは。（一同「こんばんは。」）

それでは、第35回リニア対策協議会資料と書かれた資料について私からご説明致します。着座にて失礼致します。

本日のご説明内容は5点です。

まず1点目、2点目が南アルプストンネル長野工区と伊那山地トンネル青木川工区の工事状況について、3点目が工事用車両台数、4点目が環境測定、5点目がその他の順にご説明致します。

まず1点目の南アルプストンネル長野工区工事についてです。4ページ目をご覧ください。

こちら大鹿村の工事進捗状況をご説明致します。なお、今回より大鹿村の平面図を工区境までの平面図に変更しております。図面下方の赤点線が中央新幹線の路線図になります。小渋川を挟んで名古屋方が伊那山地トンネル新設青木川工区になります。青木川工区についてはこれまで調査坑の掘削を進めていましたが、そちらが完了し本坑に戻っております。続いて、右側は南アルプストンネル新設長野工区です。長野工区については赤点線の下に緑点線があるかと思えます。こちらは先進坑を表しております。長野工区については最も工区境に近い箇所掘削をしている除山非常口から先進坑が工区境まで残り約3.9キロになっております。詳細は後程ご説明致します。

5ページ目です。小渋川非常口の状況です。

小渋川非常口からは本坑を品川方に向かって掘削を進めております。

6ページ目です。釜沢非常口の状況です。

釜沢非常口は小渋川、小河沢川との交差にあたり先進坑に一旦戻って品川方に向けて掘削を進めております。下の写真が施工状況写真になります。

続いて、7ページ目です。除山非常口の状況です。

こちらは今後の本坑掘削に向け準備作業を行っているところであります。下が施工状況写真です。

8ページ目です。発生土仮置き場の状況です。

発生土仮置き場B、三正坊と呼ばれるところですが、こちらは土砂の搬出を適宜行っております。発生土仮置き場E、小渋川変電所予定地は土砂の搬入

搬出を行っております。下の写真は発生土仮置き場Eを上空から撮った写真になります。

続いて、9ページ目。2点目、伊那山地トンネル青木川工区工事についてです。

10ページです。青木川非常口の状況です。

中央構造線部周辺の地質及び湧水状況等の確認を目的とした調査用トンネルの掘削が完了したため、10月26日より本坑に戻り品川方の掘削を再開しております。現在は中央構造線部の掘削を進めております。下の左側が施工状況写真で右側の図面が現在の進捗状況を表しております。

続いて、3点目、工事用車両台数についてです。

冒頭、村長からお話がありましたが、運搬経路の変更がありますので、そちらについてご説明致します。

12ページ目です。

現在から令和6年1月13日までの運搬経路については、大鹿から出発したダンプが駒ヶ根市に行く際には町道洞新線を往復する形になっております。それが令和6年1月15日以降、13ページ目ですが、行きの駒ヶ根市方面には伊那生田飯田線を通して、県道北林飯島線を通ります。帰りは青の点線になり、町道洞新線を通して戻るルートに変更となります。14ページ目には、工事用車両の通行台数、渡場交差点での数字をお示ししております。表の中の数字については月別日平均の往復台数をお示ししております。来年1月から約1年程度の予定についてご紹介致します。まず、1月から3月の予定です。資機材運搬については50台を想定しております。発生土運搬車両ですが、伊那インター工業団地で240台、前河原、三共、中沢の3箇所300台となるように調整し、合計590台を想定しております。4月から6月については、資機材運搬の50台はこれまでと同様になります。発生土運搬車両については伊那インター工業団地が今年度で終わります。また、前河原についても1月中で終わる見込みです。そのため三共、中沢の2箇所300台になるように調整致します。加えて、年度当初から小和田が始まる予定ですので、こちらで300台。計650台で運行することを考えております。

続いて、15ページ目。工事用車両通行台数の実績と予定です。

15ページ目は資機材運搬車両の9月から12月までの実績と今後の予定をお示ししております。表の数字は先程と同様に月別日平均の往復台数です。測定箇所に

については下青木薬師堂前、沢渡橋、大鹿村役場前、半の沢、渡場交差点の5箇所になります。渡場交差点の9月から12月の実績については20.9台から39.3台でありました。来年1月から3月の予定は50台としております。

続いて、16ページ目。発生土運搬車両台数です。

渡場交差点をご覧ください。9月から12月の実績は292.8台から390台でございました。今後の予定としては540台を想定しております。

続いて、4点目。環境測定についてです。

18ページ目で渡場地区における環境測定のご説明を致します。今後、工事用車両の本格的な通行に先立つ現況把握を目的として、渡場地区において環境測定を実施しております。測定項目としては、大気質、騒音、振動になります。測定期間は2018年11月から通年測定を行っております。19ページ目から21ページ目が9月から11月末までの測定結果になります。同じ資料をA3版で大きなものに印刷しておりますので、見やすいほうでご覧いただければと思います。

それでは、19ページ目になります。

19ページ目では二酸化窒素と浮遊粒子状物質の9月から11月末までの結果をお示ししております。青の棒グラフが今回測定した1日平均値となります。緑の横線が参考に平成29年度の中川村で実施された1年間のコンテナ局での測定結果の月別平均値となっております。二酸化窒素ですが、9月から10月末までは概ね0.004から0.006ppm程度でございました。11月については最大が0.01で概ね0.008ppm以下という結果でございました。

続いて、浮遊粒子状物質です。

浮遊粒子状物質については概ね0.015mg/m<sup>3</sup>以下であると確認しております。

続いて、20ページ目に騒音と振動の昼間の測定結果をお示ししております。

青の棒グラフは先程と同様に実測値になります。緑の線については参考でJR東海が実施した令和元年度の月別平均値になります。騒音の結果ですが、概ね64デシベル以下と確認しております。振動については30デシベル以下という結果でございました。

続いて、21ページ目が夜間の測定結果になります。

赤の棒グラフが実測値、緑が令和元年度の月別平均値となります。騒音の結果ですが、最大56デシベル程度を確認しておりますが、概ね50デシベル前後という結果でございました。振動については30デシベル程度という結果でございます。

最後に5点目。その他になります。

お手元にピンクや水色の工事カレンダーをA3版でお示ししております。こちらについては、大鹿村内で発生土の活用の見込みが立ったことから、4月から11月については発生土運搬車両の土曜日運休を決めましたので、そちらを表しております。その他工事に関するご意見等があれば、こちらお問い合わせ先を書いてあるJR東海や南アルプストンネル長野工区、伊那山地トンネル青木川工区JVにご連絡いただければと思います。最後になりますが、渡場交差点における交通量調査についてご説明致します。

24ページ目です。

発生土置き場の中沢への本格的な運搬に先立って、現況把握を目的として、12月11日月曜日に渡場交差点において交通量調査を実施致しました。次回調査については発生土置き場の中沢への本格運搬を開始する2024年4月頃を予定しております。今回実施した調査項目としましては、交通量、滞留量、軽車両および歩行者数となります。調査日時は12月11日月曜日の6時から19時で調査を行いました。説明については以上になります。

会長 はい、ありがとうございました。

それでは、JR東海の工事関係、それから交通量調査を新たに考えると、中沢へ運ぶことになりますので、ルートを変えて。この説明がありました。このことを議題と致します。

まず、ご質問やご意見、混ぜこぜで結構でございますので、挙手をしていただいて、質問等をお願い致します。係がマイクをお持ち致します。よろしくお願ひします。

はい、委員さん

委員 すみません。また、環境測定結果で教えていただきたいのですが、浮遊粒子状物質の中川村実施の緑の線と、1日平均値、今回測定されているデータとの差が大きすぎるのですが、これは中川村の平成29年度のデータの中には、特に高い値があったのでしょうか？二酸化窒素の傾向と比べるとそんなに差は出ないのが、普通なのではないかと思ったのですが、平均値が高くなっている理由がおわかりでしたら教えてください。



J R東海 はい、ご質問ありがとうございます。

我々も11月のデータはばらつきが大きいということで、平成29年の緑の線で月の平均値を出しておりますが、日別のデータを確認しております。それを今、前方のスクリーンに写しますので、少々お待ちください。

会長 電気を少し暗くしてください。

J R東海 二酸化窒素もデータのばらつきがあって、緑の線の平均値を日別でデータを分析したものが今投映してるものになります。我々の車両が走る前の29年度につきましてもデータにばらつきがありました。現在、我々が測定しているデータと同じような傾向を示していることを確認しているところでございます。

会長 浮遊粒子状物質の月平均を出していただいていますけれども、日の最大値のデータがもしわかっていれば、そこら辺の説明をいただけるとありがたいですが…。少々お待ちいただきたいと思います。それではこの時間を使いまして、関連するご質問でも結構ですので、J R東海が調べて傾向としてこうだということがわかればお答えいただくとして、それは時間を取りますので、他のことでも結構ですので、皆様の中からお質問があればお受けをしたいと思います。

はい、委員さん。ちょっとお待ちください。

委員 すいません。今の質問とは違ってもいいですよね？

会長 はい。

委員 申し訳ありません。14ページの通行台数について確認させてください。お世話になります。よろしく申し上げます。

発生土の運搬で小和田地区が4月から本格化するということで、ここに300台という数字が記載されております。以前にも小和田地区の搬入台数が150台から250台という数字があったように記憶していますが、300台が最も新しく、大体固まってきた数字と理解してよろしいでしょうか？

よろしく申し上げます。

会長        それでは、先に委員さんからお話がありました運搬台数300台という見通しについて、J R東海、お答えいただけますでしょうか？

J R東海    はい、ご質問ありがとうございます。

              以前ご提出をさせていただいておりました台数150台から200台は片道当たりの数字で出させていただいている状況でございます。今回こちらに記載をしております数字は往復で記載をしておりますので、大体150台の倍になっている状況で、基本的にはこの台数で固まっている状況ですので、この数字を今回ご提示させていただいた状況でございます。

会長        ご説明の通り数量は変わらないです。

委員        今後は一方通行になるので、例えば葛北地区を通るのはいわゆる150台を目安に考えればよろしいという理解ですよね？

J R東海    片道は150台でございます。

会長        ありがとうございます。

              関連の工事用台数でも結構ですので、もしあれば…。

              委員さん、どうぞ。

委員        お世話になります。

              前回の資料の中で、14ページの関連になるのですが、私の記憶だとその時点でダンプの関連が270台それから資機材運搬が50台ということで、合計320台で記憶しています。今回提示していただいた1月から3月は590台で、内訳でいくと540台のダンプと資機材運搬が50台であります。270台に対して資機材運搬が50台ということであると実際約倍増ということになる。資機材運搬は100台になる気がするのですが、その点をお聞かせいただきたいということと、それから先程委員さんから質問がございましたけれども、二酸化窒素、それから浮遊粒子状物質の関係であります。1点は平成29年度の中川村実施のコンテナ局の測定した場所、それからJ Rが実施された令和元年度の場所、これを教えていただきたい

と思います。なぜかという、村の測定場所とJ Rが固定で測っていただいているところと場所が違うことをお聞きしたいと思います。

会長        それでは先にJ R東海お願いします。

J R東海    まず、1番最初にご質問いただきました台数ですが、前回の協議会、それからその前の協議会と数字としては変わりなく、資機材運搬50台、伊那工業団地240台、それから中沢、前河原、三共を合わせて300台は変わってはいません。

委員        そうすると運搬する量が違うということですか？どう考えても倍になれば、現在270台の時は半分しか積んでいないので、540台の時に満タンだったってこと？そうでなければ計算上合わない気がするのだけど…。

J R東海    実績の話ですか？

委員        今の資機材運搬の関係です。

J R東海    資機材運搬は現在50台を予定しています。

委員        ダンプが動く台数と資機材運搬車両の関連性はないということでもいいのか？

J R東海    ダンプはダンプで、資機材はそれ以外の工事用車両になり、直接発生土を運ぶのがダンプで、それ以外のバックホーを運んだり、資機材運搬車両とは別のカウントになります。

委員        はい、わかりました。

会長        車両計画については往復台数で前回と変わらないということでございますので、お願いしたいと思います。

それから中川村が測定しているコンテナ局の平成29年度の村の測定場所、それから浮遊粒子状物質に関して、J R東海の調査しました日別のデータと緑色の線

は村で調査している平均データですが、この多さの違いは何かということについて中川村からお答えしたいと思います。

幹事 よろしくお願ひ致します。

まず、委員さんから質問がありました19ページの浮遊粒子状物質の平均値と実測値で、緑色の線と青色の線の計測値の差でありますけれども、緑色のラインにつきましては、中川村で平成29年度に計測させていただきました。これは今データと比べさせておりましたが、変わらない数字ですので、この緑色の線については合っているものと考えます。後、コンテナ局の設置場所についてでありますけれども、平成29年度につきましては、福親の集会所のところなので、渡場交差点の南の大林建材の事務所の手前で測定を行っておりました。現在、測定を行っているのは、渡場交差点の直近の角になりますので、測定場所としては少し差があるということでもあります。

会長 測定場所の違いはおわかりいただけたと思いますが、最大値と平均値のところの関係はいかがでしょうかというご質問ですが、お答えいただけますか？

J R 東海 はい、お願いします。

中川村から提供されたデータを確認致しました。月の平均としましては、9月、10月、11月は大体0.02で推移をしておりますが、最大値としては0.04、最小値としては0.01というような数字でばらつきとしては少し大きいと考えております。これは平均すると概ね3ヶ月で0.02という数字になっている状況でございます。

委員 ちょっとすみません。

会長 はい、委員さん。

委員 このようなデータはばらつきがあるのが普通です。私が気にしているのは、どちらかのデータがおかしくないかということだけなので、気になったのはばらつきの分布が平成29年度の時に上のほうにかなり高かったってということになるはず

なので、今年と比べると。なので、それが本当にそうなのか気になりました。というのは、二酸化窒素が平成29年度と今回のデータでそんなに変わらない、変わらないってことは多分全体の汚染状況はそれほど変わっていないはずなので、特異な値が平成29年度に出ているところはならないはず。それを伺いたかった。もう1つ伺いたいのは、平成29年度の時にどういうデータだったのかよくわからないのですが、今年と比べると10月頃から11月頃にかけて非常に週間変動が綺麗に出ています。SPMはある一定の重量がある物質なので、そういう意味では、例えば逆転層が起こった時、私はいつもこのことを言っているのですが、この渡場地域は特に逆転層が起こると逆転層の発現がよく見られるところなので、次第に汚染物質が溜まっていく状態がよく見えています。だから、データとしてはJRの今年と比べると非常によく出ている感じを持ったのですが、それから見ても平成29年度のデータは、違うのではないかと。どっちが違うか私にはわからないのですが、基本的な基礎データのところがどちらかが間違っている気はしないでもないのですけれども、基本的な考え方だけ教えていただければ結構です。ばらつきがあるのは当たり前だと思っているので、おわかりになることを教えていただきたいのと、もう1つ、風速のデータはこの時取っておられますか？それが気になっていて、確か村のデータは風速を取っていたと思います。風速によって、多分この週間データが非常に綺麗に出るところは風速が弱かったはずなので、逆転層の傾向はかなり綺麗に出ているので、風速を取っておられれば記載していただけるとありがたいなと思いました。データの正確性の点で記載していただきたい。

会長 風速のデータはコンテナ局ではなくて、大気測定車を借りた時に村で測っておりますので、そのことについて説明をさせていただきます。

幹事 現在測定を行っていますが、今年度分のデータについてはまだ結果が出ておりません。

会長 同時期の過去のデータがない？

すいません、過去に調査をしておりますけれども、前も申し上げましたが、大気測定車が来るときは今言った通り風速は測りますが、時期がずれておりますの

で、申し訳ありませんが比較はできないと思います。それから逆転層のお話が出ましたので、このことについてはJ R東海の中でこういうことも加味しながら調査を続けていただくことしかないかと思しますので、よろしくをお願いします。私どもも同じものやっっていればいいわけでありませけれども、それがなかなかできないという現状でありますのでよろしくをお願いします。環境測定については、まだ何かございますでしょうか？

〔発言者なし〕

会長 はい。

それでは、J R東海、今の件についてお願いします。

J R東海 先程ご質問のあった風速につきましては、弊社では測定していない状況でございます。平成29年度の月平均値と我々が測定をしているデータに少し乖離があるというところもございますので、測定の方法も違いますし、方法も違うものですから、一概には言えないと思ひますけれども、平均ではなくて日別のデータを少し分解してもう少しデータ分析を進めていきたいと思ひますので、よろしくお願ひ致します。

会長 これは私どもにも言えることですから、大気測定車が来た時点での調査、ご指摘がありましたので、その月に遡って改めて見てみたいと思ひております。環境の関連はよろしいでしょうか？

〔発言者なし〕

会長 はい。

それでは工事関係それから車両台数、それから調査、交通量調査の方針が示されましたが、このことについて全体で皆様の中から何かご質問等ございましたら、出していただければと思ひます。

はい、委員さん。

委員 10ページの青木川非常口の状況で、本坑入って中央構造線に赤線が差し掛かっているところがありますが、わかればその辺りがどんな状況かを教えていただければと思います。

会長 お願いします。

J R 東海 青木川の状況ですけれども、まず10月26日まで調査坑の施工をしておりました。こちらにつきましては、延長で約350メートル施工しております、中央構造線の領家帯のマイロナイトから三波川帯の泥質片岩区間に入りまして、その後、三波川帯の1番悪い泥質片岩区間から緑色片岩を確認して中央構造線の調査坑のトンネル掘削を完了しています。調査坑につきましては、泥質片岩区間はかなり粘土化をしておりましたので、施工としては非常に難しい状況ではございましたが、水は幸いにも出ておりませんでしたので、安全に施工ができた状況でございます。その結果を受け、10月26日から本坑に戻りまして、マイロナイト区間50メートルを残しておりましたので、まずそのマイロナイト区間を進みまして、現在、三波川帯の泥質片岩区間に突入している状況でございます。調査坑の施工をフィードバックして本坑も施工しておりますので、今は安全に施工ができています。調査坑で水が出ていなかった状況も本坑でも、今水がほぼ出てない状態で施工ができておりますので、現在のところは安全に施工ができていますところでございます。

会長 はい。

専門的な用語が出ましたが意外と心配したこともないとそういうことですか？

J R 東海 心配しなくてもよい、ということはないです。土としては柔らかい土です。慎重に掘らないといけません。そのために調査坑できちんと地質を確認しましたので、確認した地質データを基に、本坑でも慎重に工事は進めています。

J R 東海 すみません。簡単に聞こえたら申し訳ありません。

会長 ありがとうございます。

J R 東海 補助工法などはかなり最上級のもので施工を進めておりますので、掘削難易度としては非常に高いのは間違いないと考えています。

会長 よろしいですか？  
他に何かございますでしょうか？

[発言者なし]

(2) 県道工事関係

- ① (主) 松川インター大鹿線改良事業について
  - i) 飯田建設事務所
- ② (一) 北林飯島線改良事業等について
  - i) 伊那建設事務所

会長 はい。  
それでは全体の中で最後にご質問を忘れたことがありましたら、全体でお出し  
いただくとして、県道工事関係を議題と致します。  
最初に主要地方道松川インター大鹿線の改良事業について飯田建設事務所さん  
説明をお願い致します。

飯建 皆さんこんばんは。(一同「こんばんは。」)  
日頃より長野県の建設行政にご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。  
私からは松川インター大鹿線の改良事業についてご説明をさせていただきます  
。それでは資料2-1をご覧ください。順を追って説明をして参りますけれど  
も…。

会長 着座で説明してください。

飯建 わかりました。着座にて説明させていただきます。



①葛島、それから④四徳大橋西につきましては、前回の協議会でもご説明しましたが、関係機関と協議をしつつ設計等を進めているところであります。引き続き、実施に向けた検討を進めて参りますので、よろしくお願い致します。

②の二軒屋の道路改良事業につきましては、現在主に現道の拡幅工事を行っているところであります。こちらにつきましては、資料2-2でご説明を致します。

次に③道路改良の半の沢になります。こちら資料2-1の下段に③の半の沢の写真がございますけれども、この写真は11月末時点のドローンによる空撮の状況でございます。盛り土工事は全体で約53万立米の計画でありまして、仕上げ量はソイルセメントで11月末時点で15万3,000立米、普通土につきましては、2万9,000立米となっております。ソイルセメントベースですと、11月末時点での進捗率は66.5%となっております。

⑤道路情報提供設備につきましては西山トンネル及び東山トンネルの道路情報カメラの接続に関して進めているところでございます。

⑥トンネル事業の落合トンネルですけれども、こちらは7月7日に熊谷組、浅川建設工業、吉野組の特定建設工事共同企業体と本契約を行いまして、これまで準備を進めて参りましたが、12月に坑口部の木の伐採等に着手したところであります。今後、進捗状況を見ながら状況の報告をして参ります。

その他の工事につきましては、令和5年度の予定に記載してある内容については全て施工済みとなっております。

続きまして、資料2-2をご覧ください。

こちら二軒屋の道路改良工事の資料になっております。資料左側に工事概要と位置図についてお示ししてありまして、右側に平面図、それから右下のところに現在の施工状況の写真を添付させていただいております。こちら9月20日から片側交互通行規制を実施しておりました。当初は12月上旬に交通規制解除の予定だったのですが、一部に遅れが生じまして、片側交互通行規制が12月下旬までとなっております。また、工期も延長となりまして、年明けにガードレール設置工事を行う予定となっております、その際にも、一時的な交通規制が生じる予定となっております。なお、前回ご要望いただいておりますカーブミラーの設置につきましては、ガードレールの設置に合わせて設置する予定となっておりますので、よろしくお願い致します。工期の延長により、引き続きご迷惑をお掛け

することになりますけれども、大変申し訳ございませんが、ご理解とご協力をお願い致します。

私からの説明は以上となります。

会長 はい、ありがとうございました。

松川インター大鹿線につきましては、特に二軒屋の工事については、舗装の工事が一部遅れている関係で、ご要望の強かった個人の出入りに関してのカーブミラー設置はガードレール設置と合わせて施工いただくという説明がございました。この件について何かご質問等ございましたら、お出しをいただきたいと思いますが…。

委員さん、お待ちください。

委員 すみません。

半の沢の盛り土についてですが、今の施工内容は、以前県の技術検討委員会で結論として出された時のJRが出された施工計画と変わっているところはありませんか？私、図面をこの前拝見しましたが、私も自信がありませんが、もし変わっているようでしたら、技術検討委員会の委員の先生方にこういう変更あるけど大丈夫なのかとか、そういったことは意見を聴取されたのかどうか？それを伺いたい。

飯建 ご質問ありがとうございます。

基本的に大きな変更点はないものと認識しております。ただ、細かい排水の配置などそういったところで多少の変更はあると思います。現時点では、特段委員の皆様にご報告する内容はないと認識しております。

以上です。

会長 委員さんいいですか？

どうぞ。

委員 この盛り土の1番の眼目は地下水の排水だと思うのですが、地下水の排水方法というか、管の大きさや配置とかは、私がこの前図面を拝見した範囲では違うと

感じていますけれども、その辺は私から見ると重要な変更だと思っているのですが、その辺は大丈夫ですか？

飯建 すみません。

本日は図面等がないので再度確認をさせていただきます。大きな変更はないものと認識しておりますが、再度確認の上、ご報告をさせていただきたいと思いません。

会長 施工者としてはいかがでしょうか？

J R 東海 はい。

J R 東海としましても、今県が回答した認識と同じでございます。基本的な排水計画の考え方は有識者会議から変えていません。ただし、現場の施工上で現地を見て若干変更せざるを得ない箇所が少々出てきておりますので、そういうところの図面変更は県と調整をしながら、対応させていただいている状況でございます。

会長 それでは今の件については、実施施工の中でのお話ですから、長野県さんの中で次回にまとめて説明をいただければいいかと思しますので…。

委員 ちょっといいですか？

会長 はい。

委員 実施工と仰っているのですが、技術検討委員会に出された最終図面と申しますか、検討時点が出された図面があると思うのですが、少なくともその図面と今施工時点が出されている図面と、特にその排水の問題については変わっていないのかどうか？要するに問題は地下水の排水の処理が適正にできるかどうかが一番の問題であって、そこが変わっているのか変わっていないのか？変わっているとしたらどういう変わり方をしてるか、私は正確に見ていただきたいと思えます。盛

り土の1番眼目の部分ですので、地下水排水が。そこはちゃんと見ていただきたいと思います。

飯建 了解しました。再度確認をさせていただきます。

会長 はい。  
それでは次回に回したいと思いますので、よろしくお願いします。

委員 もう1つ、すみません。  
これ要望ですけれども、盛り土の現場をリニア対策委員会の委員のメンバーの皆さんでまだ見ていらっしゃらない方がいると思います。特に地元も含めてですけれども、1度見ていただいたらいいと思うので、そういう機会を設けていただいたらどうでしょうか？

飯建 その件につきましても検討させていただきたいと思います。

会長 協議会の会長としても、是非見ておいていただいたら、わからなくてやっているより、実際にこういうことだっというのがわかったほうがよろしいかと思いません。次回、是非飯田建の中で現場との調整をしていただいて、機会がありましたら、予め今の委員の皆さんにはお知らせをして、現地視察したいと思いますので、よろしくお願いします。  
よろしいでしょうか？

〔発言者なし〕

会長 はい、それでは一般県道北林飯島線の改良事業等について伊那建設事務所から説明をお願い致します。

伊建 皆さん、こんばんは。〔一同「こんばんは。」〕  
よろしくお願い致します。  
それでは着座にてご説明をさせていただきます。

資料3をご覧ください。資料3でございますが、北林飯島線の改良について図示をしています。その中で①から⑥の項目がございます、そのうち伊那建設事務所として事業を行っている箇所につきましては、①の三共地区の狭隘部、②の交差点西側、③の交差点付近、④の北林橋付近、⑥の天の中川橋西側を実施させていただいております。その中で、①は資料に書いてあります通り、現場は完了している状況でございます。それでは細かいところの説明をしたいと思いますので、資料4をご覧ください。

資料4でございますけれども、左側に図示されている①から⑦の項目になっておりまして、先程の資料3の①から⑥にプラスしまして、⑦竜東線の関係が1つ加えてございます。

まず、①から説明をしたいと思いますけれども、①の平面図の図面ですけれども、①につきましては、黄色い部分、赤い部分に着色された箇所でございます。こちらの部分につきましては、その表にございます通り、三共1工区から3工区で3つの工区に分けて工事を進めておりまして、図面にも書いてある通り、現場は12月5日に完了しております。その工事と合わせて④北林橋付近の工事もしております。工事は橋梁の一部車道化と側溝の工事が完了しております。ただし、区画線等の工事が、まだ若干残っておりまして、これについては、年明けて1月に施行する予定でございます、1月12日までに完了する予定であります。裏面になりますが④の詳しい状況になります。これは北林橋付近の安全対策になりますけれども、歩道部分の車道化で写真1の通りとなり、現在写真のような状況になっていまして、車道の幅員が従来よりも広がっております。また、写真2のようにカーブの手前にカラー舗装を実施しておりまして、カーブの注意喚起を行っているところでございます。先程もお話しましたけれども、追加の区画線になりますが、センターライン等の施工がまだとなっております、それにつきましては今後の施工で1月12日までに現場を完了する予定で考えております。

また、表の面に戻っていただきまして、続いて②の竜東線と交差点までの歩道の設置工事、③竜東線の隅切り工事、⑥国道交差点の道路の拡幅工事、こちらの主な工事は12月中に完了する予定でございます。最終的な仕上がりは1月にずれ込みますが、1月12日までに全てを完了させる予定で現場は動いているところでございます。それと⑦竜東線との交差点につきまして12月5日の時に現場を完了させていただいております。1月には現場は全て完了する予定ですが、引き続

き、J R 東海、中川村と連携しまして、発生土運搬の懸念解消に取り組んで参りたいと思いますので、よろしくお願い致します。

以上が伊那建設事務所で開催している内容になります。

会長 はい。

J R 東海で、もし立木の伐採等で今後の方針がありましたらお願い致します。

J R 東海 はい。

少々顔が見えづらいところからのご説明となりまして申し訳ございません。資料3をご覧ください。J R 東海施工の施工内容についてご報告させていただきます。

前回10月の対策協議会時点では、⑤の村道城坂線は施工中でございましたが、村道城坂線での立木の伐採、防犯灯の設置、バリカーの設置は完了している状況でございます。

また、資料にはございませんが、前回の対策協議会でご意見をいただいた今回村内の運搬ルートが大きく変わることに伴う小中学校の保護者へのお知らせにつきまして、村のご協力もいただきまして、12月の上旬に村内の運搬ルートの切り替えや新たな運搬ルート、また運行の計画につきまして、保護者にメール配信サービスで、通知をさせていただいたところでございます。先程からご説明しております通り、来年の1月15日月曜日から運行ルート切り替えを行いまして、来年の春以降に小和田の運搬が始まりますと台数が本格化して参ります。定期的に運行ルート沿線地区の皆様には回覧板をお借りしまして、運行状況について随時お知らせしていきたいと考えておりますので、よろしくお願い致します。

J R 東海からは以上になります。

会長 それでは道路改良に関連をしております漁業池線、接続する工事を村でやっておりますので、そのことも合わせて説明を致します。

幹事 それではご説明をさせていただきます資料3-④の北林橋付近の村で施工しております村道漁業池線整備に伴う交差点改良についてであります。先程、伊那建設事務所さんの説明資料4の裏面を見ていただくのが1番わかりやすいと思いま

すので、そちらをご覧ください。北林橋の北林側、坂の上の方のところですが、そこで県道が下ってきたところをまっすぐ天竜川へ突き抜ける路線が村道北林漁業池線になります。現在、漁業池線と合わせて鳳来沢の河川整備を工事発注して施工しておりますが、県道との取り付けの部分について現在工事を行っております。図面で見ると③と書いてあるところの左側の道路下にL型擁壁を入れ、①の上の方で、ブロック積みも一部取り壊して、新しくブロック積みを設けて、この道路を拡幅する工事になります。L型擁壁については、年内に完了しますが、その上のブロック積みについては電柱がございまして、その移転が年内になってしまいますので、その後工事になります。そのために来年1月13日まで工事を行って、現在片側通行規制を県道でかけさせていただいておりますが、1月13日までに片側通行は解除できるように工事を進めています。この部分で年明けまでずれ込んでしまいますが、どうぞよろしくお願い致します。

会長 一連の説明、飯田建設事務所、伊那建設事務所それからJR東海、それから私も関連する道路工事の接続部分の説明がありました。このことについてご質問等をお受けしたいと思います。特に関連しています葛北それから三共総代さんの中からもご質問等多いかと思いますけれども、もしありましたら、是非お出しをいただけたらと思います。

委員さん。

委員 資料3の③の部分の交差点ですが、③の道を挟んで上側に田島建設の事務所があると思うのですが、ちょうど事務所の裏側がかなり奥へ停止したときに右側から降りてきて、交差点を見るとかなり奥を見る形になりまして、そして欄干が大きくそれを見通すかたちになるものですから、そして欄干の周りに笹竹がだいぶ大きくなってきています。これから2、3年するともう少し大きくなると思うので、なるべくその箇所の見通しを良くしていただけると、やっぱり上から降りてくる時に出てきたんだなってわかる感じにしておいていただくとあそこだけで詰まらなくなるのかなと思っています。

会長 竜東線の場所おわかりになりますか？

伊建 わかります。  
現場を確認させていただきまして、処理ができるか検討してみたいと思います。

委員 地域要望で地域の方々から話が出てきているので、そこら辺お願いします。

伊建 ありがとうございます。

会長 はい、委員さん。

委員 すみません。

葛北地区も来年になりまして運搬が本格化するので、地区の安全対策で今までいろいろお願いしてきておりますけれども、いくつかお願いしたいことがあります。まず資料4で北林飯島線の葛北橋の交差点部、資料4でいきますと右下の湾曲した交差点、今できつつある交差点のところを端的に言ってしまうと地区の住民の方から白い線ばかりいっぱいあるので、目がチカチカしてしまい、どこを通ればいいのかわからないという意見が地区に寄せられていて、それで年末の総会の中で要望等をお願いしてほしいという声がかかなり上がってきました。私も考えるに、まず1つはセンターラインにしても何にしても白い線1色で引かれていたりすると、減速用のコの字が交差点付近から始まって、そういうものを含めて葛北橋を通して合流しようと思うと白い線がいっぱいあって目がチカチカしてわかりづらい。今度は逆に下から上がってきた時にもどこを通過して葛北橋へ曲がれいいのかという話が結構あります。いずれにしても、これ湾曲したところが交差点となるので、これからダンプがいっぱい通ってくると危ないと思うので、1つはセンターラインなどもはっきりさせて、通るところの仕分けができるようにしたほうがいいのかと思うのが1つ。

それと、例えば葛北橋から合流するところですけども、停止線をしっかり書いておいてもらわないとどっちが優先で止まればいいかわかりづらいと思います。若い人ばかりならいいのですが、申し訳ありませんが、地区でもお年寄りも結構車で移動してこの道路は使うところです。しかも、北林へ上って行くのもそうですけれども、葛北橋を渡って葛北もしくは渡場、柏原に行く方も結構多いもの



ですから、ここの交差点の交通の案内がわかりやすいように何か工夫していただきたい。多分、ダンプが増えて非常に危ない交差点になるので、注意していただいて改善を行ったほうがいいのかなと思います。地区の方からもどこを通ればいいのかよくわからないと話が結構ありますので、ここだけをご検討いただきたいのが1つ。

後、葛北柳沢線との交差点、資料4でいきますと④につきましては、合流する交差点になり、非常に危ないというところで、死亡事故もあったところなので、安全対策をお願いしてきているところでもあります。今回、路面標示やカラー舗装をやっていただいて非常に感謝しておりますけれども、もう少し派手でも良くないかというような意見も出ております。今後、交通の状況を見ながら、地区としてもいろんな意見があったらお願いして参りたいと思いますので、よろしく願いしたいと思います。

それで3点目、城坂線については歩道という迂回路になるということで、当初、支障木の伐採につきましては、下流側の竹を中心にやられましたけれども、場合によっては途中で折れたような木もあるので危険なものは再度やっていただければということで話があったんですけども、そこら辺についてはなかなか対応していただけなかった状況がございます。入口や何かで道にもせり出してすぐ落ちてきてもおかしくないような木もありますので、また折に触れて点検していただいて、状況を判断し対応していただければと思いますのでよろしく願いします。

3点程申し上げて、誠に申し訳ありませんが、通行量も増えるということで地区でも安全対策を気にしておりますので、ご配慮をお願い致します。

会長        まず3点意見をいただきました。できることとか色々あると思いますが、まず伊那建からお答えいただければと思います。

伊建        はい、ご意見ありがとうございます。

三共の資料4の右下の交差点でありますけれども、仰る通り今までの交差点よりも広くなっており、余地の部分が多いということで、このような形態になっております。路面標示につきましては、どうしても白線が基本でございまして、路面標示で色があるのは、追い越し禁止の黄色の線になります。線の色を変えるの

は厳しいと考えておりますので、他の対応で何かできないかを村、地元を含めまして、別の方法で何ができるのか考えさせてもらえればと思いますので、またご相談させていただければと思います。

それと北林橋付近でございますが、こちら先程、総代さんからお話ありました通り、センターラインがまだ引けていない状態です。こちらのラインを引いていく中で運行状況を見ながら追加のものが要かどうかも含めて検討していければと思いますので、引き続き、ご相談させてもらいながら、様子を見ていければと思っておりますので、よろしくお願い致します。

会長        それでは城坂線の支障木については協議の中でJR東海により伐採をしていただいたわけですが、道路に被っている木がありますので、このことの方針について、村からお答えをしたいと思います。

幹事        城坂線については村道ですので、また支障となる木については伐採している状況であります。こちらで確認をさせていただきながら、対応を検討したいと思います。道路の側溝とか歩行者に支障があるようでしたら、対応していきたいと思っております。

会長        北林飯島線の道路改良に関連したことで結構でございます。  
委員さん。

委員        1つお願いしたいのですが、城坂線を下っていった北林飯島線との交差点、これは横断をするわけですか？そこら辺に表示があるかどうか、これから使うようになった時に、何もなければ使えないので、そこら辺はどのようにするのかを聞きたい。

会長        前もこの関連のご意見が出たかと思いますが、歩道が北側に付いているのかな？

委員        そうです。

会長 宮下建設工業さんのプラントのもう少し西かと思いますが、城坂線を下りてきたら、やはりどっちを歩いてということをやっているのだと思います。横断歩道の件ですか？

委員 横断歩道がない。

会長 伊那建設事務所でお答えいただければと思います。

伊建 すいません、歩道の位置と歩行者の動線等を考えると確かにここで横断せざるを得ないような状態であると思われます。

ただ横断歩道についてはご存知の通りだと思いますけれども、公安委員会になりますので、そちらと協議させてもらう形になると思いますけれども、よろしくお願ひ致します。

会長 以前にそういったご意見いただいておまして、きちんと対処しておりませんので、これについては伊那建からお答えがあった通りでありますので、よろしくお願ひします。

委員 もう1ついいですか？

会長 はい。

委員 もう1つはこれから竜東線を使って、ダンプが荷を積んで登っていくと思うのですが、発電所の向こうから北林飯島線のところまで上り坂になります。荷を積んで坂を登っていくとかなりアクセルを踏み込まなければなりません。ということは、排ガス等が今より違ってくると思います。だから現時点の騒音、あるいは振動、排ガス等の観測をしておいて、それをベースに、今度本格的に始まった時にどんな変化があるのかを考えてほしい。

会長 測定場所をもう少し北へって言うことですか？

委員 いや、渡場はいいのですけれども、新たな測定場所を、これからしばらく運搬が続きますよね？その時に必ず苦情が出ると思います。もう少し静かに走ってほしいとか、だから、渡場と柏原の境の辺り、あるいは旧道と分かれる柏原から上へ登っていくところ、その辺りに置いたらどうかと、具体的に場所はわかりませんが。

会長 新たな提案でございますが、これについては4月から確かに増えますので、それについては、村とも併せてJ R東海でできるのかということは即答できませんし、検討をさせていただきます。そういうことで、J R東海よろしいですか？  
はい。何かありますか？

J R東海 ご意見ありがとうございます。

我々の方でも環境の知見がいろいろあると思いますので、そちらも踏まえながらまた村とご相談させていただきたいと思います。よろしくお願い致します。

会長 他にございますでしょうか？  
はい。

委員 すいません。3点程お聞きしたいと思います。

前回まで石綿成分を含む石のこと、それからそれ以外にも有害物質がある可能性ということで、そういった運搬もあるという表示があったと思うのですけれども、今回から抜けてしまっていますので、是非そこら辺、次回以降新たな危険物が出たとか、石綿成分を含むダンプの運行はいつ頃何台ぐらい出るという表示をお願いしたいと思います。

それから24ページのところの渡場交差点における交通量調査で、実施をしていただいてありがたいと思いますが、この結果についても早急に提示していただいて、わかり次第、報告をお願いしたいと思います。

それから、もう1点、お願いなのですが、1ヶ月か2ヶ月ぐらい経つと議事録をいただくわけです。その議事録の保管は総代に一部で、現在30何回の議事録が私どもの地区にもあるわけでありましてけれども、なかなか一般の家庭の方たちまで回らないということがありますので、大変申し訳ありませんが、渡場地区は10

組になりますので、11部用意していただいて、配っていただくと大変ありがたいと思いますので、是非よろしくお願いします。

会長 蛇紋岩は出ればあれだと思いますけど、そこら辺の話を現実になのか、お願いをしたいということ、議事録に関しては私どもでお答えしたいと思いますのでお願いします。

J R 東海 はい、ご意見ありがとうございます。

まず、石綿を含んだ発生土を運搬していないかというところで、前は小渋川の非常口から蛇紋岩が出てきているところですが、今のところそちらの蛇紋岩は全て大鹿の仮置き場Eの対岸にある鳶ヶ巣の左岸道路に活用しておりますので、今、大鹿村から運搬している実績はございません。現在、蛇紋岩を含め対策土は運搬しておりませんが、今後そういった事象がある場合には、改めてご報告をさせていただきます。

それから交通量調査につきましては、まだ結果が出ておりませんので、結果がわかり次第、お示しさせていただきたいと思います。

事務局 はい、それでは議事録について説明します。

一応、議事録については、ホームページで誰しもが見れる形にしてあります。ただ、そうは言ってもということであれば、30ページ以上ありますから、担当と相談させてください。お願い致します。

会長 はい。

この件はよろしいでしょうか？それでは全体を通じて沿線の地区の総代さん、いろいろご質問とか要望とかがもしありましたら、是非この機会にお出しいただければと思いますけれども…。

委員さん。

委員 それぞれの機関でどこが担当するということがあるかと思いますが、何点かお願いをしたいと思います。

冒頭の会長の挨拶の中でも下伊那の協議会の中で粉塵とか大雪に対する対応について述べられておりましたが、田島地区も来年から往路であります。ダンプが通る中で、地区の総会や定例の組長会の中で3点程要望がありました。ご紹介しながらお願いしていきたいと思えます。

まず、ダンプカーが通行することによりまして、もし道路の損壊もしくは舗装の損壊等があった場合には、できるだけ速やかに補修をしていただきたいという要望が地域から出されました。

合わせて、天竜川の堤防、宮下建設工業の東側のほう、左岸で工事をしております、それと伊那建さんが北林飯島線の改良しておられて、どちらが出してるかわかりませんが、天の中川橋から田島の公園くらいまでの間で散水車を出していただいております。これは伊那建さんが出しているのか、天上で出しているのか、私どもにはわかりませんが、田舎にしてみると、田島から中央を通過して、小和田に行くところは住宅の密集地、もしくは店舗の密集地に入ります。都会からすると何よってくらいのところではありますが、田舎からすると1番の密集地であって、やはり粉塵ですとか、それから騒音ですとか、土砂の対策、住宅があると当然洗濯物があったりと、お店では商品を扱ったりしておりますので、ダンプの通行に伴う道路の洗浄等について、もう少し延長をどこかでしていただけないのか、ご検討いただきたいと思えます。

それから、これは県道であっても村になるかと思えますが、除雪の対策を同等以上に取っていただきたい。やはりダンプが通ると通行の障害ばかりではなくて、いろいろな面で周りの住宅等に影響が出て参りますので、できるだけ早い除雪をお願いしたい。

以上の3点が地域から出されました。これらについて地区で何かあった時に言ってこいよっていうのではなくて、できれば道路管理者、もしくは関連するJR等々で定期的に点検をいただきながら、こういう対応を取っていただけると、地域で何かあれば、村に連絡をしますが、施工者としてもこちらについては気を配っていただいて、注意をしていただけるとありがたいと思えます。

以上でございます。

会長      はい、ありがとうございます。

ダンプの通行に関しての補修の要望については県道という考え方でよろしいかと思しますので、伊那建設事務所さん、これについてはお答えいただければと思います。

伊建           ご意見ありがとうございます。

道路の補修ですけれども、通常の補修につきましては伊那建設事務所ですら参りたいと思っておりますけれども、これからダンプが通るということで、ダンプによる影響があるかと思っております。そちらはJRとお話させていただきながら、対応させていただければと思います。

2点目の散水車の関係ですけれども、こちら県の工事ではやっておりますので、天上さんで出していると思っておりますので、そちらも含めて伊那建が道路管理者ですので、天上さんとお話しながら、そこら辺の対応を検討していただければと思っております。

また、除雪の対応につきましても、ダンプが通るということで、朝早い段階からダンプ通りますので、そちらの除雪の関係も関係部署にお伝えして、対応を検討して参りたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願い致します。

幹事           村からもお返事をさせていただきます。

堤防の土砂についてでありますけれども、伊那建設事務所さんも仰られましたように県道管理者、そして堤防工事を行っている天竜川上流河川事務所と連絡を取りながら対応できるように村としても対応を行っていきたく思います。除雪体制につきましても、県道ですのでメインは県の管理になりますけれども、そちらについても村としても連絡調整をさせていただきながら、しっかりとした対応を考えていきますので、今後も協議をさせていただきます。

会長           私からも1点申し上げたいのですが、今三共の漁業池に運び込まれている発生土、それから漁業池線を形作っている発生土につきましては、国道経由で宮下建設工業の会社の中を通行させていただいて、手戻りがないように回していることでありまして、どうも粉塵がひどいと、どうもあそこでやっている堤防工事ではないかと思われるので、これについては、伊那建設事務所も答えましたが、地区

の皆様にご迷惑掛けるのはまずいので、国交省と早急に対策を立てていきたいと思っております。

一応、全体の議題は以上となりますけれども、何か皆さんの中でこの点を言い忘れたということがございましたらお出しをいただければと思います。

はい。委員さん。

委員 委員さんからもホコリのお話、それから会長さんからもホコリのお話が出ましたが、渡場の辻もご多分に漏れず、すごいホコリです。村とJRが来ていただいて、現場を見ていただきましたが、はっきり言って、白物の洗濯物は自宅の近辺では干すことができません。今、天上さんが散水車を出していただいたということで、渡場の辻も現況は大鹿から松川に曲がっていくことになっているので、どうしてもあそこからJRは一生懸命シートで土砂が漏れないように引いていただいているところでもありますけれども、それに限らずダンプが通ることによって、見ていただいているのでわかると思うのですけれども、2週間ぐらいで渡場の辻のセンター付近に砂利や砂が溜まります。是非それを取っていただきたいということと、ホコリ対策で散水車を提案していただけることになれば、なおありがたいと思いますので、是非ご検討をお願いしたいと思います。

会長 それでは飯田建設事務所さんお答えいただければありがたいですけれども、対策について。

飯建 ご要望ありがとうございます。飯田建設事務所です。

通行車両により起こすホコリについて道路管理者としてどこまで対応できるか、いろいろ考えてみたいと思いますけれども、現時点では具体的にお答えできるものがないですが、まだ中川村とも相談させてもらいながら、何ができるか検討したいと思いますので、よろしくお願いします。

会長 はい。聞くところによると小渋砂利組合さんが12月28日に交差点付近の砂が散っているものについては掃除をしていただくこととお聞きしておりますし、これから通行量が激しくなって参りますので、JR東海については規定の量の中で、委員さんが仰ったようにシートを覆って運行してますから、まずそれはあり得な



いとは言いませんけれどもと思います。全体の中での問題だと思しますので、私どもの運行時、それから清掃をもう少し頻繁にできないかを議題として上げて参りたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

全体を通しまして言い忘れたことがありましたら、お出しをいただきたいと思っておりますけれども、特になければこれで時間も経過しておりますので、協議会を閉めて参りたいと思っておりますが、皆様よろしいでしょうか？

ありがとうございました。

それでは、その他で何かありましたら、なければ事務局にお返しを致しますので申し上げます。

事務局 先程、現地視察という意見がありましたので、3月または6月、例えば最初に視察をした後で、またこういった場を設けると検討していきたいと思っております。

よろしくお願い致します。それでは、閉会のご挨拶を副会長申し上げます。

副会長 今晩は長時間に渡りまして、貴重なご意見をお出しいただき、大変ありがとうございました。

新年度1月からは、運搬経路の変更があるということで運搬に関する安全、それから環境の保全に最大限の努力をしていただきたいとお願いを致しまして、本日の会議は終了と致します。

大変ご苦労さまでした。（一同「ありがとうございました。」）